

城南家保ニュース Vol.29-5

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

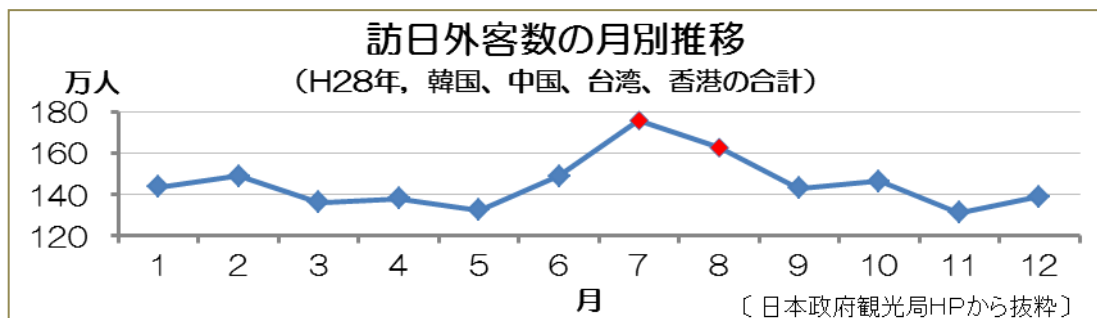
メールアドレス jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojounan>



夏季休暇期間中における口蹄疫等の防疫対策の徹底について

中国、韓国等の近隣諸国においては、本年に入ってから**口蹄疫**や**高病原性鳥インフルエンザ**の発生が確認されています。また、本年3月にはロシア東部のイルクーツク州で**アフリカ豚コレラ**が発生しました。これらの**家畜伝染病の侵入リスクは、依然として高い状態**であると考えられます。このような中、訪日外国人旅行者数は年々増加しており、さらに**夏季休暇期間は諸外国からの人と物の流入が激化（下図参照）**するため、**より一層の防疫対策の徹底が重要**となります。



つきましては、畜産関係者の皆様におかれては、従来からの防疫対策に加え、特に以下の事項に御留意のうえ、**口蹄疫等の発生予防措置の徹底**と**監視体制の強化**に万全を期されますようお願いいたします。

- 1 海外渡航を可能な限り自粛**し、やむを得ず**渡航する場合は以下の点に留意**して下さい。
 - (1) 畜産関連施設（家畜市場、農場、と畜場等）に立ち入らないこと。
 - (2) 動物との不用意な接触を避けること。
 - (3) 肉製品等を日本に持ち帰らないこと。
 - (4) 帰国の際は到着した空海港の動物検疫所カウンターに立ち寄り、指導を受けること。
 - (5) 帰国後1週間は衛生管理区域に立ち入らないこと。やむを得ず立ち入る場合には、洗髪・入浴、更衣等の適切な処置を講ずること。
- 2 衛生管理区域への病原体の持込み防止の再徹底**について
農場の衛生管理区域への不要な人の立入り、物の持込みを防ぐこと。やむを得ない場合には、洗浄、消毒その他必要な措置を講ずること。
- 3 早期通報の徹底**について
口蹄疫等の家畜伝染病を疑う症状を発見した場合には、速やかに家畜保健衛生所に通報すること。

乾乳牛の暑熱対策の重要性について

さる7月19日、薬品会社主催の養牛講習会に参加しました。「夏場を乗り切る牛の飼養管理」というテーマで2題の講演が行われ、いずれも現在の酪農現場が抱える問題に対処するための示唆に富んだ内容でした。このなかで特に印象に残った話題を紹介します。臨床獣医師である船越大資先生（熊本大動物クリニック）の講演「暑熱ストレスによる酪農家の損失を軽減する管理」において、「乾乳中の暑熱対策の重要性は30年前から訴えられているが、最近では搾乳牛の対策ばかりが重視され、乾乳牛対策がかなり疎かになっている」とのお話がありました。

以下に示すとおり、乾乳中の暑熱ストレスは母牛自身だけでなく、お腹の中の子牛に対しても影響し、長期間にわたり生産性が阻害されるとのことです。

乾乳中の暑熱ストレスの影響

1 母牛への影響

- 分娩前の乾物摂取量低下 → 分娩後に採食が回復しても1乳期にわたり乳量低下
- 分娩後の免疫が低下 → 乳房炎、消化器病、胎盤停滞の発症率↑、治療効果↓

2 子牛への影響

- 生時体重とその後の増体低下
- 淘汰率が高まる（初回授精まで、初産時乳期完了まで）
- 対策群に比べて15~20%↑
- 初産時の乳量低下・・・5kg/日×305日×100円=152,500円/頭の損失

このように、乾乳中の暑熱ストレスは母牛とその子牛に悪影響しかなく、経済的損失の試算では、年間100頭の分娩規模で610万円という甚大な被害につながる事が示されました。ここから一歩考えを進めると、1,000万円で暑熱対策をとれる乾乳牛舎を建てた場合、2年目の途中から十分に元がとれ、その後も増収につながるという計算ができることとなります。以上、毎年の猛暑が避けられないなか、乾乳牛管理は農場の収益性を大きく左右するポイントになると思いますので、自農場の管理内容を改めて見直される事をお勧めします。

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

発生地域	発生期間	発生種別	ウイルス型
アフリカ豚コレラ 欧州・ロシア等	2007年以降~（継続発生）	豚・いのしし	
	6月10日~6月29日（直近発生）		
ミャンマー	7月16日	家さん	H5N1
	6月29日~7月13日、7月16日	地鶏	H5N2
高病原性鳥インフルエンザ 台湾	6月29日	あひる	H5N8
	6月28日~7月6日、6月22日~6月27日	あひる、七面鳥、地鶏、がちょう	H5N2
ベトナム	7月4日	家さん	H5N1

平成29年8月1日時点

編集後記 (K.S)

汗まみれで防疫服の脱着もままならない今日この頃、人も家畜も相当へばってきた頃かと思います。家畜たちが猛暑を乗り切るためには、管理する人の健康維持が第一です。まずは人の暑熱対策を徹底されますよう。